

## 令和2年度第3回学校運営協議会 概要

嶺北高等学校

日 時 令和3年2月19日(金) 18:00～19:30  
会 場 嶺北高等学校 第一会議室

### ◇委員名簿

No.	区 分	氏 名	出欠	No.	区 分	氏 名	出欠
1	学校関係者	山田 憲昭	○	6	地域住民	高橋 清人	○
2	保 護 者	古谷 雅之	○	7	地域住民	徳橋 正人	○
3	学校関係者	岩本 誠生	○	8	地域住民	山下 由子	○
4	学校関係者	高石 清賢	○	9	地域住民	油野 昭彦	○
5	学校関係者	松岡 寛	○	10	地域住民	山首 尚子	○

### 《委員による協議会の概要》

#### 1 令和2年度の学校評価について

○資料「令和2年度学校経営計画・学校評価」を事務局から説明。「学力の向上」「社会性の育成」「チーム学校」の3項目の学校関係者評価について協議。

##### 【高石委員】

- ・「学力の向上」の「②自主学習の仕方の理解」について、2年生が38.9%と昨年度1年次の62.2%より下降しているが、要因は。

##### 【事務局】

- ・このアンケートが11・1月という時期の実施であることから、例えば模擬試験なども秋から5教科となるなど各科目の負担が大きくなるタイミングと重なるため、学習量の増加やそれに対する戸惑いなどが傾向として表れるという、2年次の特徴的な傾向があるのではないかと。

##### 【高石委員】

- ・学校としては問題視していないということか。

##### 【山田委員】

- ・問題として捉えている。2年生全体という意味もあるし、全員ではないが寮生の欠席状況など不安定な要素もある。学力の下支えをするのが日常生活だが、それが一番顕著になるのが寮生。不安定な1年間を過ごしていることが出欠状況から分かる。本人達が自主的に答える県独自アンケートへの回答であるが、迷いなどが結果に現れていると思われる。

##### 【高石委員】

- ・理由は分かったが、そのうえでA評価というのは、問題視はしているが全体でみたらA評価ということか。

##### 【山田委員】

- ・そういう評価であるが、2年生の下降は来年度に向けての大きな課題として捉えてもいる。

【高橋委員】

- ・全体的な向上は認めるが、2年生が下降している中でA評価はいかがか。

【山首委員】

- ・学力とは直接の関係はないかも知れないが、コロナ禍の中での生徒たちの生活状況が自主学習にどう影響するかは気になっている。最近よく高校生をみかけるようになった。おそらくイオンなどに出て行かない、密な空間に行けないということだと思う。いろいろなストレスや制約の中での生活になるが、寮生にとってもかなり窮屈な生活じゃなかったかという心配や、逆に自主学習や自分の探究の時間に費やすような環境にあったのかということも気になっていた。ふだん地域で高校生が歩いている姿は見なかったが、最近よく見るようになったと感じており、コロナ禍にあっての影響や学力との関連も見ていかないといけないと思う。

【山下委員】

- ・これは目標に対してA評価であるということによいか。

【山田委員】

- ・目標に対する評価ということによい。

【山下委員】

- ・掲げている目標に対する結果としての評価であれば、A評価ではないか。

【徳橋委員】

- ・目標はクリアしているというご意見やコロナの影響という見方のお話もいただいた。ただ、やはり2年生の数値は低いと考える。重要な学力把握定着検査についての目標はクリアしているが、度合いとしては道半ばとも受けとめている。もうひと頑張りしていただきたいという意味でB評価が適切ではないかと考える。

【山田委員】

- ・あくまでも外部評価であるので、厳しめにご査定いただきたい。

【古谷委員】

- ・息子が高校2年生だが、例えば英語のリスニングの比重が高くなるなど大学の受験方法も変わっている。勉強する様子を見ても自分たちの頃とは大きく異なる。2年生の下降は、自主学習の方法の大きな変化が数字に表れているのではないかと。岐路に立っている2年生の特徴ではないかと思う。

【山田委員】

- ・社会的な要因や将来への心配が2年生にはダイレクトに表れていると思う。

【徳橋委員】

- ・今回はB評価でいかがか。

(承認)

【徳橋委員】

- ・意見もいただいたのでB評価でコメントもつけたい。続いて「社会性の育成」は厳しめにC評価となっている。④「3年生進路決定率」が重要だと考えるが、結果は100%である。C評価とはならないのではないかと。

【高石委員】

- ・②「スマホ使用率」は中学生でも50%であったりするが、3学年ともそこまではない。①「物事への取組」を見ても、言われたようにC評価ではないのではないかと思う。

【徳橋委員】

- ・④「3年生進路決定率」の100%はA評価に該当するが、①「物事への取組」②「スマホ使用率」③「1年生進路希望率」が途上にあるという意味でAから1つ下げてB評価が妥当なところではないか。

(承認)

【徳橋委員】

- ・続いてチーム学校について、授業改善と学校の振興が重点項目と思う。Bが半分、Aが半分という評価になっているが、授業改善もずいぶん尽力されているし「総合的な探究の時間」も前に進んでいるという状況もある。継続的に努力していただくということはもちろんだが、今現在の努力はA評価に値するのではないか。
- ・ちなみに「働き方改革」について、時間外業務量を今後減らしていく具体策は。

【山田委員】

- ・職員一人ひとりが働き方改革の目標数値を設定している。部活動・授業準備・校務分掌など様々な仕事の中で、結果的には部活動を効率化することで成果が出ている教員が今年度は多かった。具体的には集合から解散までを素早くするとか無為な時間を作らないとか、そういった個人の取組が成果を出している。基本的には先生方自身で働き方を改革するよう委ねているが、方向性としては部活動を効率的に運営するのが1つの観点、それから校内業務の改善。授業の準備をすることは教員の生命線であるので、その時間を確保しつつ生徒と対面でしっかり指導ができる時間を担保していくという方向性は昨年度も出したが、来年度もその方向で進めていく。キーポイントとしては、生徒の主体性に委ねられる部分は委ねて、手取り足取りではなくどんどん自分たちで決めさせていく。危険がともないどうしても教員がいなくてはならないような場面ではどうしようもないが、例えば生徒会に教員がついて活動する場面などは生徒会のメンバーだけでも主体的にやっていけるのではないか。一例だがそういう方向性を2月中には教職員に出す予定でいる。

【高石委員】

- ・この90数パーセントという数値は上出来ではないか。

【山田委員】

- ・健全な働き方をしてもらっているとは思っているが、なお効率よく仕事をしてもらおう方法を考えている。

【高石委員】

- ・細かいことをいったらきりがながい、いじめや長期欠席もゼロである。トータルで見たらA評価でよいのではないか。

【徳橋委員】

- ・目標設定が100%となっているが、80～90%の設定をしクリアすれば、努力されているとことだと思ふ。

**【山田委員】**

- ・昨年度の数値がなかったこともあり、理想としてそういう学校づくりをした  
いという設定となった。今回、具体的な数値結果が出たので1つの基準とな  
る。それをもとに来年度の目標は95%にするなど段階的に100%に近づ  
けていくような数値を設定することも考えている。

**【高橋委員】**

- ・100%という設定は、時間外業務の上限が月45時間・年360時間と法  
制化されているという事情にもよるだろう。
- ・長期欠席者がいないというのは本当に素晴らしい。学校に足が向いていると  
いうこと。

**【徳橋委員】**

- ・チーム学校については、今後も努力を継続していただくという意味でのA評  
価でよろしいか。

(承認)

**【松岡委員】**

- ・生徒理解・生徒支援の転退学者について、理由など構わない範囲でお聞かせ  
願いたい。

**【山田委員】**

- ・1年生1名は県外・大阪から来た寮生。学び方を変えていくために県外の通  
信制高校を受験し直したいという希望でのこと。校長の面接も経て転学とな  
った。2年生1名については、個人情報も含むため詳細は控えるが、ご家庭  
でもいろいろとお話があったうえで保護者の方が退学を認めた。学力的には  
十分ついていけるので通ってもらいたいことを伝えたが、本人の気持ちが学  
校ではなく別の方に向いてしまっているという状況だった。

**【岩本委員】**

- ・学校の振興について、連携中学校以外からの志願者数5名以上は達成されて  
いるが、上限の値、例えば10名、20名といった設定は学校としては考え  
ていないと思うが、魅力化推進協議会では10名しかとらないと考えており、  
高校入試が始まる前に寮へ入る選考試験を行い10名を決定し、希望者が1  
6名いても6名は身元引受もしないし何もしないという事実関係があるが、  
そういう事実については学校とは関わりがない、寮が勝手にやっていること  
で学校は知らないということでもよいか。

**【山田委員】**

- ・学校は知らないということではないが、寮に定員があるということは認識し  
ている。

**【岩本委員】**

- ・寮の定員という意味は分かっているが、寮の定員が10名だから10名しか  
とらないということで、他の者が志願しながら受験できないということにな  
っていたという事実関係についてはどう考えるか。

**【山田委員】**

- ・それは把握していることではない。

**【岩本委員】**

- ・行政と学校にギャップがある。両町の行政が内申書と面接で10名を選考している。他の者は受けたければ身元引受人がいるが、身元引受人となる嶺親の会は責任を持ってないから引受できないと言っていると行政が説明し、その6名は受験できなくなった。

**【高石委員】**

- ・それは違う。身元引受をしないとやっているのではない。

**【岩本委員】**

- ・ではそれはデマが流れているということか。その6名はいろいろな事情があってどうしても嶺北高校に入りたいということだったが、引受できないということだった。

**【高石委員】**

- ・嶺親の会に行政から正式な要請はない。ただ、寮は10名しか入れないから、他の人については寮以外の住居を自分で確保したり親戚に頼るなどしてこちらにくるといっているのであれば身元引受をする。嶺親の会としては、嶺親の会で寮に入れない人を引き受けて誰かの家で下宿させることは今のシステム上は無理ということ。責任の所在が分からないため、下宿を提供できる方はいないかと嶺親に投げかけること自体できない。

**【岩本委員】**

- ・知らない地域で下宿を探すということは難しいだろうと、両町に対しては下宿を斡旋するなど工夫をして受験のチャンスを与えてほしいと言ったが非常に消極的である。
- ・自分が身元引受人になるから受験をさせてやってほしいということも言ったが一向に進まないという状況。せつかく嶺北に来たいという生徒がいるのだから、寮に入れない生徒たちには下宿を斡旋するなり空いている住宅を紹介するなり、温かく迎え入れるシステムでないといけませんが、そうでないなら嶺北高校も含め、10名しかとりませんとはっきり言うべきではないか。

**【高石委員】**

- ・それは行政の話。

**【岩本委員】**

- ・寮に10名しか入れないという理由で受験しないとなれば、県外の生徒が来たくても来られなくなる。町なら町が、もし寮へ入れないならこういうかたちで斡旋するというようなサポートをしないといけないのではないかと話すが、両町とも積極的でない。

**【高石委員】**

- ・それはその通り。

**【岩本委員】**

- ・とにかく受験し合格してからの話であるのに、合格する前に寮に入る者を決めているのは本末転倒ではないか。

**【山田委員】**

- ・実際は、住居の見当をつけて受験するか否かを決めるというのが実態。例え

ば高知市内の学校を受験する場合は、下宿が何軒あるかといったことを学校に事前に問い合わせ、学校に届いている地域の下宿の案内を見て選んだりする。

**【岩本委員】**

- ・そういう実態は理解している。寮には10名しか入れないということは最初から分かっているのだから、来たいという人に対して他に住むところはどこにもないと言う対応ではいけないのではないかという話。何らかのかたちを作っていくべきではないか。
- ・行政が入寮する者を決めるということは越権行為ではないか。入学が決まった人が寮に入るのではなく、寮に入ることが決まった人が学校を受験するのは逆ではないか。

**【山田委員】**

- ・町は本当に本校を受験できないと言っているのか。それはデマが流れたのではないか。

**【岩本委員】**

- ・寮に入れる10名を選考していること自体が越権ではないかということだ。寮には高校に合格した人が入るのだから、それを先に決めてしまったから越権ではないか。

**【山田委員】**

- ・現状は、受験する予定の人という前提で入寮者を決めていると認識している。

**【高橋委員】**

- ・受験をしてくれるという前提で決めている。不合格なら入れない。

**【山首委員】**

- ・高知市内や県外ということになると寮に入れることを考えるが、入れなければアパートなどになる。保護者がアパートを借りて一緒に住んでいる人もいる。言われるように、その高校へ入りたい、受験をしたらそこに住まわせたいという意向で進めていくと思う。

**【岩本委員】**

- ・寮だけの問題ではなく、下宿をしてでも高校へ来たいという人がいるのであれば、下宿できるような体制を考えなくてはならないのではないか。

**【高石委員】**

- ・それはその通りだが、それを嶺親にというのは無理がある。

**【岩本委員】**

- ・それは理解している。嶺親に全部お任せではいけない。

**【高橋委員】**

- ・嶺親の会の役割については決めている。

**【山首委員】**

- ・土佐町から高知市内に通っている人もいるので、受験に合格はしたが寮には当たらなかったという人がいれば高知市内のアパートから通うなど住居を持って嶺北高校に通うということも、この学校に入れたいという人がどのように子供を住まわせるかということであり、試験に合格してからの話ではな

いかと思う。

【山下委員】

・先に寮の方が決めているのがおかしいという解釈でよいか。

【岩本委員】

・その通り。学校に入る前に寮に入ることが決まっている。

【山下委員】

・それはやはりおかしい。例えば15人合格したらその中で寮に入れる者を決めるというのが公平なのではないか。

【山首委員】

・逆に言うと、寮がなかったら入らないという人がいるとしたら、逆にどうしても寮に入りたいという人が受験をやめているということになる。

【岩本委員】

・嶺北高校に来たいという人が増える中で、例えば20人になったらどう受け入れるかというようなことも行政は考えてかなくてはならない。

【高石委員】

・受け皿を考えたり先着順で10名とするなどの対応が要る。仮に16名受けたら10名は寮で6名には受け皿をある程度構えるような制度でないといけない。

【岩本委員】

・今まで入っていたところもあるのでそこはどうかという話もしたが、そこは使わないとのこと、どうしても10名からは増えないという話から変わらないのはおかしい。

【山下委員】

・今までのところはもう使わないということか。

【岩本委員】

・使わない。だから10名しかとらないのかという話になった。

【山首委員】

・実際には何人来るか、どのような生徒がくるか分からない状況の中で、寮に入れない生徒に対して住居の保証をしていくことは連携して考えていかなくてはならない問題。親ももちろん努力してもらわないといけない部分はある。

【岩本委員】

・対応している行政との今後の協議が必要。

【徳橋委員】

・学校評価については「学力の向上」B・「社会性の育成」B・「チーム学校」Aとし、評価コメントは会長が代表し作成するということでよいか。

(承認)

## 2 地域協働コンソーシアムについて

○第2回協議会の検討事項を受けて、総務連携部より嶺北探究の成果や地域協働コンソーシアム構想案についての説明。

- ・嶺北探究の年間の活動内容。コロナ禍の中でも積極的に地域に出て活動。
  - ・2年生の活動テーマ。マイプロジェクト中四国大会に5チームが出場。
  - ・地域協働コンソーシアムの構想図。地域学校協働活動推進員とコンソーシアムが連携した取組。
  - ・コンソーシアムの窓口。新たに設立された一般社団法人れいほく未来創造協議会の担当者、推進員からの相談によって事業所等と調整。
  - ・推進委員会の立ち上げ。持続可能な体制の確保を目指した取組。
- 徳橋委員より新たな推進員の詳細や大学との協働のあり方について補足のうえ、上記内容の提案。
- (承認)

### 3 その他

- 令和3年度第1回委員会について、連休明けに開催する方向で確認。
- 令和2年度末で任期満了となる委員全員の留任について確認。
- 生徒へのコロナワクチンの接種について現況と当面の見通しを確認。